

大手スーパー「イオン」(本社・千葉市)が、東久留米市南沢5の旧第一勧業銀行ひばりが丘グラウンド跡地で進めている大型商業施設の建設計画が暗礁に乗り上げている。財政難にあえぐ市が、税収増の「切り札」として誘致を進めてきたが、地元住民らは「渋滞が引き起こされる」「商店街が壊滅する」として反対。今年4月だったオープン予定は大幅に遅れ、いまだに着工のめどすら立っていない。(工藤淳)

当初、今年4月オープン予定

大型商業施設 着工未定

同跡地は広さ約5万5700平方メートル。大型商業施設は地上4階、延べ床面積9万5000平方メートルの計画で、約2000台の駐車場を完備する。延べ床面積は、市内の全小売店舗面積に匹敵するとされ、周辺道路には一日平均7600台が通行する見通しだ。

出店計画は、これを産業拠点に位置付けた都市計画

業施設は建設できないが、市は地区計画を活用して計画を進める方針だ。

一方で、周辺道路が狭いことや、近くに小学校、老人施設があり、周辺住民は環境悪化を懸念。市民団体「旧第一勧業グラウンド跡地利用と環境を考える会」(塩田俊朗代表)は「大渋滞による排ガスなど、環境への影響も大きい。住居専用の

東久留米市、税収増の切り札

マスタープランに沿い、この地域に大型店を出すの昨年に浮上した。市は大型商業施設の誘致に伴い、年間約3億円の税収増を見込む。市は2003年に「財政危機宣言」を発表、06年に解除したが、現在も厳しい財政運営を強いられている。同跡地は第一種中高層住居専用地域で、本来は商

この地域に大型店を出すのは納得できない」と計画撤回を求める。地元商店も売り上げへの影響に危機感を募らせ、昨年8月には市内すべての商店会長と市商工会が野崎重弥市長に出店反対の要望書を提出。「車を待つ人だけが便利な街にならない」と訴える。

焦点

住民「道路渋滞」 商店「壊滅危機」 地元反対

こうした動きの影響もあつて、今年4月のオープン予定は大幅に遅れ、現在も着工されていない。市都市計画課は「事業者の環境影響評価書の準備が終わっていない。反対も強く、計画を拙速に進めるつもりはない」とイオン側は「行政手続きを進めている段階。着工、オープンの時期は決まっていない」とする。遅れの背景には、所沢街道から予定地への誘導路建設に地権者が反対していることもあられるが、同課はその点については「協議中」としている。

野崎市長は9月市議会で「出店の影響はあるが、地元商店は地域に根を張って活動しており、独自の強みを発揮できる」と主張。しかし商店主らが依頼した中小企業診断士の調査は「出店が近隣商店の売り上げ85%減」と結論づけた。

市商工会幹部は「このままでは商店街がシャッター通りになる」とし、「一方的に計画を進める市長には、商店主の視点が欠けている」と不信感を募らせる。同課も話し合いは平行線と、反対派との合意点を見いだせない状況を認めている。

この状況を打開するため、市は市民に対し、大型商業施設出店を含めた街づくりの展望を明確に示すことが不可欠だ。



出店が予定されている旧第一勧業銀行ひばりが丘グラウンド跡地(東久留米市南沢5)

